

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201658		
法人名	(株)ファミーユ		
事業所名	グループホーム つぐみ下島		
所在地	静岡県駿河区下島447-2		
自己評価作成日	令和2年 8月13日	評価結果市町村受理日	令和2年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jiyosyoCd=2294201658-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「利用者様の思い願いを第一に考えるケアの実践」を行えるように、今までの生活やこだわり、大切にしていることやつながりを知り、理解し共に支え合い、生活を送ることを目指しています。

また利用者やご家族様が安心して生活をできるように、往診Dr内科、歯科、処方箋薬局と医療との連携を密に24時間医療的ニーズや、環境作りを強化に努めている。

利用者様が暮らす”自宅”として、居心地が良い環境を目指し、認知症の方でも「活躍できる暮らし」を支援していく。また今の暮らしを継続できるようハビリメニューを作成し取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「新人は基礎から」「主任は振り返り」を目安に、「根拠をもってケアに向き合えるよう」本年度から教育研修を倍増しています。またお誕生日に合わせて希望を叶える「ハッピープログラム」を考案してもいい、総じて前向き、チャレンジャーの職員集団だけあって、コロナ禍にあっても朗らかに「できることを粛々と」実践できています。「お酒が飲みたい」には本人の味覚が不確かなことにも助けられ、ノンアルコールビールでほろ酔い気分を味わってもらえ、「スイーツパラダイス」と銘打ったケーキや手作りゼリーのバイキング等々、A4版の事業所通信では入りきれないほどの刺激や歓びが日々重ねられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の想い願いを第一に考えるケアの実践」の理念を叶えるため、理念の共有は常に仕事、サービスに反映するように努めている。3月には定例ミーティングで全体の成果と反省を話し合います	理念はパンフレットにも刷り込まれ、また年間研修にも「理念について」を組み込み、実現への取組みが高い事業所です。研修では相互の想いを知りあえ、理念を共有することにつながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年は新型コロナ禍の感染予防もあって、地域とのつきあいが少なくなっています。利用者様との散歩時にゴミ拾いをする、近所の方から採れたてのスイカをいただくなど、交流は続いています。	近隣からは「役立ててください」と、手作りマスクが届いています。散歩では利用者もひばさみを手にごみ拾いするのが習慣となっていて、「畑で採れたよ」と野菜を分けてもらえることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ禍の影響で、運営推進会議や、でん伝体操教室が延期され、地域の方との交流の場は少なくなっています。利用者様との散歩時にゴミ拾いをする等、ソーシャルディスタンスで、活動を認識してもらっています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ禍の影響で、運営推進会議は1月以降延期しています。ただ1月開催時に指摘された事項防止に向けての具体的対策として、事故防止の日を月3回実施して危機管理をしています。	運営推進会議は「お互い自粛しましょう」と、メンバーと声を掛け合い、3月から集まるのをやめています。自治会長や民生委員とは買物など地域での遭遇も間々あり、世間話的な情報交換は引き続き叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、生活支援課と話すことで情報を得ている。地域包括センターとは特に些細なことや、地域で困っている高齢者の相談に関わっている。	コロナについては市役所介護保険課からは3月に2回メール配信があり、アナウンスに準ずるとともに、「こういうときは中止」といった対応への条件や設定を事業所内で整理しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で研修として身体拘束をテーマに行い、その中で知識を学び実践に生かしている。今年度は1回実施した。離床センサーに関して、何故使用するのかスタッフ間で認識して共有する	身体拘束等適正化検討委員会が定期開催され、現場に即した協議があることは議事録からも確認できます。グループワークを用いることで、「なぜそうなったか」や「その時の利用者の気持ち」を考えるよう仕向けるほか、必要に応じて個別面談も付加しています。	身体拘束未実施減算に係る書面並びに取組みは適切ですが、一部記載方法等あらためて見直し、さらに精査することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で研修として虐待をテーマに行い、その中で知識を学び実践に生かしている。研修では、グループワークを行い、日々のケアにあるグレーゾーンな部分を発表してもらいました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の研修に取り入れている。難しい内容ですが、実際に利用している人を参考にして、理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が出来るだけわかりやすく説明をし、理解していただくよう努力している。納得できているか、否かを確認しながら話を進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナ禍の影響により、運営推進会議が開けない状況ですが、事業所から利用者の家族、地域に配布する毎月発行されるお便りを運営に反映させている。	通常の面会はできませんが、地域交流室(県外者は不可、検温・消毒が必要)を活用したり、LINEのビデオ電話などで家族と利用者の関係継続を支援する中、事業所からも気づきがあれば都度電話を入れています。	事業所だよりには個別で手書きコメントをこれまでも入れていますが、今後は面会できない分のフォローとして情報を手厚くしていくことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見等聞き反映させている。また代表との面談を年2回設けそこで職員の意見を聞いている。	研修を増やしたことで、職員の意欲と発言が顕著に向上しています。また、「頑張っている職員に…」と、コロナの慰労金が配られており、法人の姿勢が職員に伝わっていることも、チームワークに寄与しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課に取り組む期間あり、管理者、職員の自己評価シートにて勤務状況や個々の努力、能力、適性を見出し向上心をもって働ける環境を築いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から、社内に研修部が発足される。新人研修及び主任、副主任の研修を行い、働きながらトレーニングする上で、チェック機構を設け、各々の成長や苦手な部分を評価する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護基礎研修や、グループホーム協会の事例報告会に参加するなどし、他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを共有し、利用者様が利用された時に、スムーズに関係を築けるよう努力しています。その後も、本人の要望についての情報を共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント内でも、家族の希望、要望を反映しています。ご家族様が来所された時に意見交換をします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様に、ご家族様と現場職員の意見を聞き、相談しながら確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との関わりの中で、本人の暮らしの中にあつたものを具体的に反映する(家事手伝い、趣味、こだわりなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者様本人について近況を報告し、その際に、ご家族様の要望や意見を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ禍の影響で、外出にも制限があり、以前より支援が難しくなっています。ご家族様に、利用者様本人の昔の写真を持ってきてもらい、いつか外出ができる時に向けて、アルバムを見ながら情報収集してます	情報収集の一環として若い頃の写真を家族に届けもらい、それを眺めながら会話の時間をもっています。また夏祭りを連想させる焼き鳥の企画をはじめ参加型の時節行事を順次開催、季節を演出しています。	昔懐かしい写真が家族から届けられていることから、さらなる「お願い」として昭和の家庭用品(アイロンや電話等)の寄贈を呼び掛けていくことも検討ください。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホーム＝本人の自宅という観点から、一つ屋根の下で暮らす仲間としてかかわっていただいたり、本人のプライバシーを守るなど、メリハリをつけて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談・支援できることは継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の利用者様とのコミュニケーションの中で、本人の希望・要望を聴きとり、本人の本位で進められるよう、ご家族様、職員どうし、管理者、ケアマネと話し合い検討する。	センター方式をアレンジした「わたしの暮らしシート(A3版)」は居室担当が記入、計画作成担当者がチェック、と段階を踏んでホーム会議にあげられ、全員で検討することで情報共有と思いの把握につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人やご家族様などから情報を集め、なじみの暮らし方を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子は介護記録に記入し、表現や発言などを記入し、スタッフ同士で本人の心情も共有するように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内で、各回に利用者様一人の介護計画の見直しをスタッフ全員で行っている。、本人や家族との会話の中にある意見を、多角的な視点で検討している。	サービス内容に「傾聴」とある利用者は言語障害があり、うんうんとうなづいての会話には、周囲の職員も癒されています。視点が伝わる介護計画書の担当者欄には家族も記載され、チームケアに結ばれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	血圧、食事制限、排尿回数、入浴有無など、個々にチェック表に記入しています。介護記録の情報を職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の提携医往診・歯科往診にて医療にニーズに応じています。その他ニーズがある時は、社内規約を確認し検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ禍もあり、地域資源の活用も難しい状況ですが、利用者様との散歩時にゴミ拾いをする事で、本人に地域への貢献を認識していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の提携医往診を受けています。入居後も提携医が変わらない場合は、家族対応にて通院していただいています。	働く家族が通院介助をおこなうのは難しく、現在は全員が月2回の訪問診療のある協力医に変更しています。皮膚科、精神科も併設されて、コロナ禍のなか、必要であれば専門医が往診くださる点も安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での変化等があった場合は看護師に相談し共有を行っている。内容により対応の変更をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様の意向を確認し、医師や看護師との連携を図り、早期退院に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のケアについて、ご家族様、主治医と話し合いをし、家族に意見を確認し、提携医の指示を受け対応しています。また重度化加算を受けており、定期的に担当看護師が利用者様の様子や症状を確認します。緊急時にも対応してくれます	家族は「最期まで此処で」と願っていて、事業所も期待に応えています。普段の診療の立ち合いにも法人ナース、薬局が加わり、健康管理に余念のない体制が敷かれ、24時間オンコールの医師がコロナ禍対応も工夫くださっていて、看取りにも安心な連携があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例ミーティングの研修や、社内の緊急対応マニュアルを作成し、それに従うように指示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナ禍の影響もあり、今年度の避難訓練の実施はしていません。しかし前回の課題だった車椅子を使用している利用者様の避難計画については、消防署の方にアドバイスをいただいております。	車椅子での避難への懸念があり、今回消防署に訓練計画に係る助言を得て避難方法を確立させている点は、真摯な取組みとして評価されます。備蓄は3日分なもの、ローリングストックを含めると5日ほどあります。	年2回の訓練実施は定められたことですので、コロナ禍であっても机上訓練やDVD研修などを以て訓練計画作成及び実施につなげることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議内の研修にて、接遇を含めて指導しています。個人情報やプライバシーを守ることを、職員に周知しています。例：他の利用者様がいる前で、「便でしたか？」ということもプライバシーの侵害に関わる	居室前のノックや職員同士の会話でのトーンには共通の理解があります。また、朝1名で大変な時間帯に「ズボンどれにする？」「今日はなに着る？」と声掛けしている職員の姿があることは本件を担保するエピソードです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で本人の意向を反映し、本人の選択が必要な時は、本人からの返事を待つように心掛けている。利用者様の希望を叶える企画ハッピープログラムを通して、本当の気持ちを言える環境を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はホールや居室での各利用者様の状況をみて、何が必要なのか、したいのかを把握するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は、自分で着ていただき、選べない方は、本人が選択できるように、複数用意し、本人の意思で決めていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者様全員で一緒のとれるよう努め、介助が必要な方でも出来ることはしていただき、機能低下しないように努める。	「彩のよいものを温かい状態で」に重きをおく手作りの食事は、利用者にも食器洗いや配膳の役割が決まっていて、また男性職員は「利用者のアドバイスで育ててもらった」というほどで、皆でわいわい食卓を囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し量を調整するなどして対応している。また水分も色々な飲物や好きな飲物を提供している。体重増減による栄養バランスの確認を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きを必ず行って頂くように声掛けをします。介助が必要な方でも、すべての介助をするのではなく、できるところまではしていただき、最後は職員が介助させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ずつのサイクルを把握し、できる限りトイレで排泄できるように対応していく。また介助が必要な方は、リハビリトイレに自立できるようなプログラムを作成。毎日実行しています。	立位が難しく2人介助となるケースもありますが、「できる限りトイレで～」を大切に、作業療法士に「職員の腰に負担のかからない」「利用者が怖い、痛い思いをしない」方法を指導してもらい、実践に反映させています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、スタッフ間で共有しています。できるだけ、自力で排便ができるように軽い運動をすすめる。メニューの中に手作り地中海ヨーグルトを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後どちらでも入浴ができ、利用者様の好みに合わせて清潔を保持している。また立位が困難な方の入浴は、男性スタッフ2人で介助し、気持ちよく湯船に浸かれるように努めている。	平均介護度3、車椅子利用者4名とやや重度化に向かう状況の中、「湯に浸かる喜びを～」への努力を続けていますが、利用者本人の体調によってはシャワー浴と足浴の対応となる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの利用者様が、本人のタイミングで「おやすみなさい」と言われ居室に戻られる。安眠できる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と薬局との連携を図り対応している。スタッフも薬の変更などに対して、連絡ノートや申し送りにて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性利用者が多いが、食事の準備、片付けなど、その人の役割を持ち生活している。外食や買い物など楽しみ・気分転換の場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩をすることを日課にしています。新型コロナウイルスの影響でドライブ外出は減ります。感染予防に気を付けて、車から降りないドライブもできますが、外出を心配している利用者様もいるため、控えているのが現状です	田園、倉庫、住宅が散在する地域はコロナ禍でも散歩しやすく、また降りずに風景を楽しむだけのドライブも継続させています。清水の七夕まつりなどの外出行事がなくなる中、寿司やラーメンなどをテイクアウトで楽しみをつけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものを伝える事ができる方はお店と一緒にいくなどして、お金を使えるよう支援している。訴えられない方は職員で必要な物を一緒に買うなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年の年賀状も利用者さんがコメントを書き、家族やお世話になっている人に送りました。また今年も利用者様宛に、本人の友人や会社仲間からの年賀状もここに届きます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって張り絵などを飾りつけている。あまり過度にならないように配慮している。調理の様子や匂い、音などを感じられる空間としテレビの声や音など生活感のある居心地の良い空間づくりに努めている。	リビングにある2台の内1台のテレビが時代劇専用気味となっていることは利用者本位を感じさせます。これまでは日中の掃除に付け加える程度であった夜間清掃にも次亜塩素酸を使って力を入れ、また朝・昼・夕3回の換気をおこない、コロナ対策を推進しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で、見たいテレビが見れるように2台設置。席からテレビが遠くならないようにする。ソファを置き、くつろげるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの物を最優先している。仏壇や写真など、利用者様にとって大切なものをそばに置き、落ち着いた空間づくりを心掛けています。	テレビ、仏壇、筆筒とともに思い出の写真、カレンダー、化粧水、時計、ラジオ、ラジカセと生活を彩る日用品が持ち込まれ、大の巨人ファンとの利用者の居室には職員とキャッチボールするグローブが光っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設はバリアフリー設計になっています。車イスの方でも、ドアの開け閉めをできるようにほとんどのドアを引き戸にしています。		